

協調学習形式の散文理解における類推と比喩の効果 (II)

Metaphor use to enhance collaboration in web-based text reading II

光田 基郎

Mitsuda Motoo

(ノースアジア大学・教養部)

North-Asia University(mitsuda@nau.ac.jp)

Abstract: This study explores how learners in small groups influence each other in computerized text comprehension tasks.

Keyword: metaphor, collaboration, text reading

目的: web 上の協調学習形式で散文理解を求めた実験で比喩、類推と教示効果による理解促進を指摘した

(光田, 日心'11)のに引き続き、教示と比喩理解による表象の図式化と討議内容の収束による集団内対人態度(課題志向性、親和性とリーダーシップ)変容を強調する。

方法: (イ)「東大奴隷と慶応貴族」(週刊東洋経済誌, '95)より、東大出の官僚、トルコ帝国の奴隷出身官僚、江戸幕府の要人、帝政ロシアの貴族出身官僚、企業が選ぶ幹部要員と慶応出の二世経営者を例として「人材選抜の基本が身分か能力か、公正な選抜か否か」を述べた箇所 29 文を端末画面で大阪経済大 2 年生 52 名が個別に閲読した。(ロ)参加者の半数には閲読直後に下記の内容再認とその下位技能のそれぞれの検査項目に対してマウスで選択反応入力を求め、次にチャット画面で 10 分間「貴族・奴隷という比喩的な表現の基本的内容は何か」を討議(検査先行)。半数はこの討議の後に下記の再認とその下位技能検査を行った(討議先行)。各群の 1/3 は上記の「この文は人材選抜が公正か否か、能力か身分か」を先行オルグとして提示した他、「選ばれて一代貴族」との比喩的表現を与え、1/3 は上記の先行オルグのみ、残る 1/3 は無教示とした計 6 群にほぼ等数ずつ割り当てた。(ハ)

(a) 検査項目は逐語/推理再認検査 8 項、(b) 閲読内容とは無関係の 4 項類推の課題 4 項、(c) 文字系列と数量を用いた予測課題、(d) 過剰類推(狸、猫、狼・・狡)、(e) 直喩と比喩の差の理解、(f) 閲読文の登場人物分類基準の理解程度評定値、(g) 類推と比喩の写像範囲の差の理解程度の評定値の各々に関してマウス入力を求めた。(ニ) 上記(イ)の登場人物相互間の類似性評定値を求めた。(ホ) 上記(ロ)のチャット記録画面を見て集団内対人態度(Bales & Cohen' 78)として、(a) 親和性、(b) 課題志向性と (c) リーダーシップの各々の自己評定値とメンバー 5 人の相互評定値並びに(d)

同調傾向並びに集団内で自己制御、(e) 集団内での評価懸念等の自己評定値(5段階)の入力を求めた。

結果: (イ) 上記(ロ)の教示(3条件) x 討議先行 vs 検査先行(2条件)の共分散分析の結果、課題志向性と親和性の自己評定値は検査先行>討議先行を示す主効果(5%)以外に、(ロ) 先行オルグのみを提示した条件下では親和性と集団参加への満足度の相関及び親和性一課題志向性の相関係数値は討議先行>検査先行(5%)が示された。このほか、思考動機と積極性との相関係数値も同様の結果を示し得た。(ハ) 討議先行・比喩と先行オルグの併用条件下では思考動機得点の向上が得られた一方、検査先行・無教示の条件下で思考動機の低下が示された。以上より、討議先行条件では検査先行条件と比較した場合、討議集団の成員が個別に検索した既得の知識表象に制約されることなく、直接的・指示的な手がかりとなる先行オルグに従う方向での内容理解を試みて討議内容を収束する。

(ニ) web 上の討議におけるリーダーシップの相互評定値(提案した、意見集約したなど)は無教示>先行オルグのみ>比喩と先行オルグ併用を示す主効果(1%)が得られたほか、リーダーシップと親和性との相関係数値も同様の結果を示し得た。特に討議先行条件下ではリーダーシップと親和性との相関係数値の低下が顕著に示された。その一方、リーダーシップの自己評定値と相互評定値の相関は上記とは逆に比喩と先行オルグ併用>先行オルグ>無教示となる。

考察: web 上の内容討議が再認とその下位技能の検査に先行する条件下で閲読文の比喩的な理解を求めた際には不完全な初期理解の共有(亀田, '97)が生じて、リーダーシップが発揮された場合には親和性の低下が示される一方、安易な同調や社会的な手抜きが生じるよりも、比喩理解による思考動機の向上とリーダーシップに関する自他の評価の一致が見られる。写像範囲の規定と合意に向けた教示が今後の課題となった。

主な文献: Suthers, D. D. et als, Beyond threaded discussion. *Computers & Education* 50 (2008) 1103 - 1127.